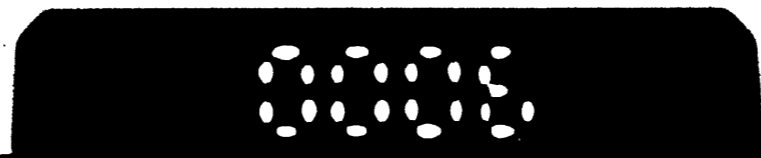


三

I-0616



件名 労働統制方策ニ關スル件
別紙添付
昭和八年八月十九日
在滿洲國
臨時代理大使 栗原 正



公機密第七八六號

昭和八年八月十九日

在滿洲國

臨時代理大使 栗原 正

外務大臣伯爵 内田 康 哉 殿

労働統制方策ニ關スル件

労働統制方策案ニ關スル件

本件ニ關シ本月十日特務部ニ於テ日滿關係官會同シ別紙ノ通りノ方策案
一應可決セラレタリ
同案第二要領(一)ノ2ハ原案ハ勞力ノ需要調(即)ノ外「労働者ノ國民的比率
統制」即チ對華民國方面ヨリノ移民取締等ヲ攝ケアリタルモ右ハ各種機
微ナル關係モアルニ付明文ニハ攝ケサルコトトシ實際上之ヲ行フコトト
セリ又(二)勞工株式會社ノ任務ニ關シテハ原案ハ土建關係ノ外「各港灣及

分類 J. 4. 1. 0. 1

各埠荷役作業ノ請負、撫順炭礦及昭和製鋼所ノ勞工供給ヲモナス」コト
トナリ居リタルモ滿鐵側ヨリノ反對ノ爲單ニ「土建關係其他」ト改メテ
レ右荷役炭礦等ニ付テハ將來ノ審議ニ俟ツコトトナリ右將來ノ決定如何
ニ依リテハ資本金及滿鐵出資額當等ニハ當然變更ヲ來ス可キモ差當り原
案通り決定セラレタリ尙右勞工株式會社ハ全滿ニ勞力ノ供給ヲナスモ獨
占的ノモノニ非ス一般請負業者等ノ勞力供給ヲ排除スルモノニ非サル趣ナ
リ爲念

本信寫送付先 在滿各領事(分館主任ヲ除ク)

I-0616

労働統制方策案

第一 方針

- (一) 全滿ノ労働統制ノ爲其ノ協議機關トシテ労働統制委員會ヲ特務部ニ置ク
- (二) 労働統制ノ實行機關ノ最有力ナルモノトシテ日滿合辦ノ滿洲労働株式會社ヲ設ケ滿洲ニ於ケル土建關係其ノ他ノ勞力ノ供給ヲ行ハシム
- (三) 裁兵及歸順匪賊ニ對シテハ訓練ヲ施シ適當ノ労働團體ニ編成シ鐵道、道路及都市ノ建設工事等ニ使役シ歸郷セサルモノニ對シテハ成績良好ナルモノヨリ順次別箇ノ労働團體ヲ編成シ一定ノ職業トナス基礎ヲ與フルモノトス

第二 要領

(一) 労働統制委員會

ノ全滿各事業場所ノ主任者ヲモ網羅スル強力ナル統制委員會ヲ

- 組織シ労働者需給過不足概數ヲ持寄審議シ需給調節ノ方法ヲ決定シ其ノ決定事項ハ滿鐵、勞工株式會社其ノ他ノ實行機關ノ協力ニ依リ實行スルモノトス
- 2. 統制委員會ハ勞力ノ需給調節ノ外労働條件主トシテ賃銀統制及労働者ノ保護統制ヲ圖ルモノトス
- 3. 委員會ノ構成ハ特務部長ヲ委員長トシ委員ハ大體別紙ノ通りトス

(二) 勞工株式會社

- 1. 日滿合辦滿洲國法人トス
- 2. 労働統制委員會ノ統制ニ從ヒ全滿ニ於ケル土建關係其ノ他ノ勞力ノ供給ヲ爲ス
- 3. 資本金ハ三千萬圓トシ
 - A、滿鐵現物出資 一〇、〇〇〇千圓
 - 内 1. 福昌華工 五、五〇〇
 - 2. 撫順炭鐵 三、〇〇〇

- 3. 東亞土木 六〇〇
- 4. 昭和製鋼 五〇〇
- 5. 國際運輸 四〇〇
- B、滿鐵現金出資額 五、〇〇〇千圓
- (日本側請負業者收容華工其他買收費及運轉資金引當)
- C、日本側請負業者出資額一〇、〇〇〇
(主トシテ現物出資、營業權ヲ含ム)
- D、滿洲國側請負業者出資額二、〇〇〇
- E、一般公募 三、〇〇〇
- 三、〇〇〇 運轉資金
- 公重役ハ政府(在滿統制機關ノ承認ヲ經テ)之ヲ認可ス

日—25,000,000
 滿—2,000,000
 公募—3,000,000

(附)

勞働統制委員會構成

- 委員長 特務部長
- 委員 參謀部員 若干名
- 經理部員
- 特務部員 若干名
- 大使館員
- 經濟調查會 若干名
- 幹事 若干名
- 朝鮮總督府事務官
- 關東廳警務事務官
- 滿洲國民政部總務司長
- 滿洲國軍政部參謀司長

7

- ✓ 國都建設局總務處長
- ✓ 國道局總務處長
- ↓ 滿鐵總務部人事課長
- ✓ 滿鐵建設局庶務課長
- ✓ 鐵道總局總務處長
- 技術協會長
- 湖東軍經理部員
- 土地協會理事長
- 滿洲勞工株式會社代表者
- 協和會中央事務局代表者

I-0616

警備

公機密第七八六號

昭和八年八月十九日

在滿洲國

臨時代理大使 栗原正

外務大臣伯爵内田康哉殿

勞働統制方策案ニ關スル件

本件ニ關シ本月十日特務部ニ於テ日滿關係官會同シ別紙ノ通りノ方策案一應可決セラレタリ

同案第二要領(一)ノ2ハ原案ハ勞力ノ需要調接ノ外「勞働者ノ國民的比率統制」即チ中華民國方面ヨリノ移民取締等ヲ掲ケアリタルモ右ハ各種機微ナル關係モアルニ付明文ニハ掲ケサルコトトシ實際上之ヲ行フコトトセリ又(二)勞工株式會社ノ任務ニ關シテハ原案ハ土建關係ノ外「各港灣及各驛荷役作業ノ請負、撫順炭礦及昭和製鋼所ノ勞工供給ヲモナス」コトトナリ居リタルモ滿鐵側ヨリノ反對ノ爲單ニ

滿蒙公キハ八一号
(九二附)ニテ
勞工會社ハ委員會
成立后審ギスルコ
トシ會社ハ取止
ムルコトナシ下記
除キテ
(原信武内)

外務省

8.7

「土建關係其他」ト改メラレ右荷役炭礦等ニ付テハ將來ノ審議ニ俟ツコトトナリ右將來ノ決定如何ニ依リテハ資本金及滿鐵出資割當等ニハ當然變更ヲ來ス可キモ差當リ原案通り決定セラレタリ尙右勞工株式會社ノ全滿ニ勞力ノ供給ヲナスモ獨占的ノモノニ非ス一般請負業者等ノ勞力供給ヲ排除スルモノニ非サル趣ナリ爲念
本信寫送付先 在滿各領事(分館主任ヲ除ク)

外務省

8.7

I-0616

勞働統制方策案

第一方針

- (一) 全滿ノ勞働統制ノ爲其ノ協議機關トシテ勞働統制委員會ヲ特務部ニ置ク
- (二) 勞働統制ノ實行機關ノ最有力ナルモノトシテ日滿合辦ノ滿洲勞工株式會社ヲ設ケ滿洲ニ於ケル土建關係其ノ他ノ勞力ノ供給ヲ行ハシム
- (三) 裁兵及歸順匪賊ニ對シテハ訓練ヲ施シ適當ノ勞働團體ニ編成シ鐵道、道路及都市ノ建設工事等ニ使役シ歸郷セサルモノニ對シテハ成績良好ナルモノヨリ順次別箇ノ勞働團體ヲ編成シ一定ノ職業トナス基礎ヲ與フルモノトス

第二要領

(一) 勞働統制委員會

- 1、全滿各事業場所ノ主任者ヲモ網羅スル強力ナル統制委員會

外務省

8.7

- ヲ組織シ勞働者需給過不足概數ヲ持寄審議シ需給調節ノ方法ヲ決定シ其ノ決定事項ハ滿鐵、勞工株式會社其ノ他ノ實行機關ノ協力ニ依リ實行スルモノトス
- 2、統制委員會ヘ勞力ノ需給調節ノ外勞働條件主トシテ賃銀統制及勞働者ノ保護統制ヲ圖ルモノトス
 - 3、委員會ノ構成ハ特務部長ヲ委員長トシ委員ハ大體別紙ノ通リトス

(二) 勞工株式會社

- 1、日滿合辦滿洲國法ハトネ
- 2、勞働統制委員會ノ統制ニ從ヒ全滿ニ於ケル土建關係其ノ他ノ勞力ノ供給ヲ爲ス
- 3、資本金ハ三千萬圓トシ
 - A、滿鐵現物出資 一〇、〇〇〇千圓
 - 内 1、滿鐵現物出資 一〇、〇〇〇千圓
 - 2、滿鐵株式 五、五〇〇千圓
 - 3、滿鐵株式 三、〇〇〇千圓

外務省

8.7

I-0616

3、東亞土木 六〇〇
 4、昭和製鋼 五〇〇
 5、國際運輸 四〇〇
 B、滿鐵現金出資額 五、〇〇〇千圓
 (日本側請負業者收容華工其他買收費及運轉資金引當)
 C、日本側請負業者出資額一〇、〇〇〇
 (主トシテ現物出資、營業權ヲ含ム)
 D、滿洲國側請負業者出資額二、〇〇〇
 E、一般公募 三、〇〇〇—運轉資金
 4、重役ハ政府(在滿統制機關ノ承認ヲ經テ)之ヲ認可ス

外務省

S.7

(附) 労働統制委員會構成
 委員長 特務部長
 委員 參謀部員 若干名
 總理部員 若干名
 特務部員 若干名
 大使館員
 經濟調査會 若干名
 幹事 若干名
 朝鮮總督府事務官
 關東廳事務官
 滿洲國民政部總務司長
 滿洲國軍政部參謀司長

外務省

S.7

I-0616



公機密第一〇三二號

昭和八年十月廿五日

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆

外務大臣 廣田 弘毅 殿

労働統制委員會委員決定ノ件

本件委員會ノ構成ニ關シ九月五日第二回會議ニ於テ協議シタル次第
ハ同月十一日附公機密第八八一號ヲ以テ及報告置タル通りナル處今
般別紙ノ通り委員決定シタルニ付右報告ス
本信寫送付先 在滿各領事（分館ヲ除ク）

外務省

10.2

國都建設局總務處長
國道局總務處長
滿鐵總務部人事課長
滿鐵建設局庶務課長
鐵路總局總務處長
技術協會會長
關東軍總司令部
土運協會理事長
滿洲勞工株式會社代表者
協和會中央事務局代表者

外務省

8.7

I-0616

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	委員
滿洲國實業部總務司長	滿洲國軍政顧問	滿洲國外交部次長	滿洲國民政部警務司長	滿洲國民政部總務司長	滿洲國總務次長	關東廳警務局長	關東廳內務局長	朝鮮總督府事務官	大使館參事官	經濟調查會
高橋康順	石野芳男	大橋忠一	長尾吉五郎	竹内徳亥	阪谷希一	大場鑑次郎	日下辰太	堂本貞一	谷正之	田所耕耘

外務省

同	同	同	同	同	同	同	同	委員	委員長	(別紙)
經濟調查會	同 一等主計	同 步兵少佐	同 二等主計正	同 工兵中佐	同 步兵中佐	陸軍歩兵大佐	同	關東軍囑託	特務部長	労働統制委員會編成
中西敏憲	東福清次郎	鹽澤清宜	金山幾太郎	秋山徳三郎	沼田多稼藏	原田熊吉	植木壽雄	梅谷光貞	小磯國昭	

外務省

I-0616

公機密第八八一號

昭和八年九月十一日

在滿洲國
特命全權大使 菱刈

外務大臣伯爵 内 田 康 哉 殿

修久尚限

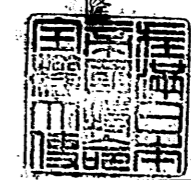
九月二十日通一ノリ
至三ノ主官様方中
越レタリ

労働統制方策案ニ關スル件

本件ニ關シテハ客月十九日附公機密第七八六號ヲ以テ御報告ノ次第
アリタル處本月五日特務部ニ於テ第二回會議ヲ開催シ右ノ結果既報
ノ勞工株式會社ノ設立ノ是非ニ付テハ労働統制委員會組織ノ上同委
員會ニ於テ審議スルコトトシ此際ハ單ニ右委員會ノ構成ノミヲ決定
スルコトトナレリ右ニ基キ既報労働統制方策案ハ別紙ノ趣旨ニ訂正
セラレタリ

右報告ス 本信寫送付先 在滿各領事 (分館主任ヲ除ク)

在滿日本帝國大使館



昭和八年九月八日
労働統制方策案
別紙添付

20/9

I-0616

勞働統制方策案

第一方針

全滿ノ勞働統制ノ爲其ノ協議機關トシテ勞働統制委員會ヲ
特務部ニ置ク

第二要領

勞働統制委員會

- 1、全滿各事業場所ノ主任者ヲモ網羅スル強力ナル統制委員
會ヲ組織シ勞働者需給過不足概數ヲ持寄審議シ需給調節
ノ方法ヲ決定シ裁兵及歸順匪賊ヲ勞働者ニ訓練スル方策
ヲ定ム
- 2、統制委員會ハ勞力ノ需給調節ノ外勞働條件主トシテ賃銀
統制及勞働者ノ保護統制ヲモ圖ルモノトス
- 3、委員會ノ構成ハ特務部長ヲ委員長トシ委員ハ大體別紙ノ
通りトス

在滿日本帝國大使館

勞働統制委員會構成

- | | |
|-----|-----------------|
| 委員長 | 特務部長 |
| 委員 | 參謀部員 二名 |
| | 特務部員 若干名 |
| | 經濟調查會 若干名 |
| | 關東軍經理部員 |
| | ✓大使館參事官 |
| | 朝鮮總督府事務官 |
| | 關東廳內務局長、警務局長 |
| | ✓滿洲國總務廳次長 |
| | 滿洲國民政部總務司長、警務司長 |
| | ✓滿洲國外交部次長 |
| | 滿洲國軍政部顧問 |
| | 滿洲國交通部總務司長 |
| | 滿洲國實業部總務司長 |

在滿日本帝國大使館

臨時委員

其他學識經驗アル者ヨリ選任ス

✓ 國都建設局總務處長

✓ 滿鐵總務部人事課長

✓ 滿鐵建設局庶務課長

✓ 鐵路總局總務處長

技術協會長

土建協會理事長

✓ 滿洲勞工株式會社代表者

✓ 協和會中央事務局代表者

若干名

幹事

在滿日本帝國大使館

I-0616

原信
各種企業
特務部研究会
ニ入レアリ

公機密第一〇三二號
昭和八年十月二十五日

在滿洲國
特命全權大使 菱刈隆

外務大臣廣田弘毅殿

勞働統制委員會委員決定ノ件

本件委員會ノ構成ニ關シ九月五日第二回會議ニ於テ協議シタル次第ハ同月十一日附公機密第八八一號ヲ以テ及報告置タル通りナル處今般別紙ノ通り委員決定シタルニ付右報告ス
本信寫送付先 在滿各領事（分館ヲ除ク）

外務省

（別紙）

勞働統制委員會編成

委員長	特務部長	小磯國昭
委員	關東軍囑託	梅谷光貞
同	陸軍歩兵大佐	熊壽雄
同	同 歩兵中佐	多稜藏
同	同 工兵中佐	德三郎
同	同 二等主計正	幾太郎
同	同 歩兵少佐	清宜
同	同 一等主計	清次郎
同	經濟調査會	敏憲
同	同	耕耘
同	大使館參事官	正之

外務省

I-0616

外務省

同	同	同	同	同	同
協和會中央事務局次長	土建協會理事長	技術協會會長	鐵路總局總務處長	滿鐵鐵道部庶務課長	滿鐵建設局庶務課長
山口	榊谷	貝瀬	下津	石原	田邊
重次	仙次郎	謹吾	春五郎	重高	利男

8.9

外務省

同	同	臨時委員	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
滿鐵總務部人事課長	國道局總務處長	國都建設局總務處長	滿洲國法制局長	滿洲國交通部總務司長	滿洲國實業部總務司長	滿洲國軍政部顧問	滿洲國外交部次長	滿洲國民政部警務司長	滿洲國民政部總務司長	滿洲國總務次長	關東廳警務局長	關東廳內務局長	朝鮮總督府事務官			
土肥	大迫	結城	三宅	迫橋	高橋	石野	大橋	長尾	竹内	阪谷	大場	日下	堂本			
顯男	幸太郎	清太郎	福馬	喜平次	康順	芳男	忠一	吉五郎	徳亥	希一	鑑次郎	辰太	貞一			

8.9

I-0616

公機密第八八一號

昭和八年九月十一日

在滿洲國特命全權大使 菱刈 隆

外務大臣伯爵 内田弘毅殿

労働統制方策案ニ關スル件

本件ニ關シテハ客月十九日附公機密第七八六號ヲ以テ御報告ノ次第アリタル處本月五日特務部ニ於テ第二回會議ヲ開催シ右ノ結果既報ノ勞工株式會社ノ設立ノ是非ニ付テハ労働統制委員會組織ノ上同委員會ニ於テ審議スルコトトシ此際ハ單ニ右委員會ノ構成ノミヲ決定スルコトトナレリ右ニ基キ既報労働統制方策案ハ別紙ノ趣旨ニ訂正セラレタリ

寫

原信
各種企業
(特務研究會)
ニ付

外務省

は(3)

右報告ス

本信寫送付先

在滿各領事(分館主任ヲ除ク)

外務省

8.9

8.9

I-0616

勞働統制方策案

第一 方針

全滿ノ勞働統制ノ爲其ノ協議機關トシテ勞働統制委員會ヲ特務部ニ置ク

第二 要領

勞働統制委員會

- 1、全滿各事業場所ノ主任者ヲモ網羅スル強力ナル統制委員會ヲ組織シ勞働者需給過不足概數ヲ持寄審議シ需給調節ノ方法ヲ決定シ裁兵及歸順匪賊ヲ勞働者ニ訓練スル方策ヲ定ム
- 2、統制委員會ハ勞力ノ需給調節ノ外勞働條件主トシテ賃銀統制及勞働者ノ保護統制ヲモ圖ルモノトス

外務省

8.9

は(3)

- 3、委員會ノ構成ハ特務部長ヲ委員長トシ委員ハ大體別紙ノ通りトス

外務省

8.9

は(3)

I-0616

労働統制委員会構成

委員長 特務部長

委員 参謀部員 二名

特務部員 若干名

経済調査會 若干名

關東軍經理部員

大使館参事官

朝鮮總督府事務官

關東廳内務局長、警務局長

滿洲國總務廳次長

滿洲國民政部總務司長、警務司長

外務省

は(1)

8.9

臨時委員

滿洲國外交部次長

滿洲國軍政部顧問

滿洲國交通部總務司長

滿洲國實業部總務司長

其他學識經驗アル者ヨリ選任ス

國都建設局總務處長

國道局總務處長

滿鐵總務部人事課長

滿鐵建設局庶務課長

鐵路總局總務處長

外務省

8.9

I-0616

は
①

技術協會長

土建協會理事長

滿洲勞工株式會社代表者

協和會中央事務局代表者

若干名

幹
事

8.9

外
務
省

I-0616

亞細亞局
公機密第三三號

昭和九年一月十一日

在滿洲國
特命全權大使 菱刈

第三部長 梅

昭和九年一月拾六日接受

勞働



佐記

外務大臣 廣田 弘毅 殿

第一回勞働統制委員會ニ關スル件

勞働統制委員會委員決定ノ次第ハ答年十月二十五日附公機密第一〇三二號ヲ以テ報告ニ及ヒ置キタル處本年一月九日第一回委員會ヲ開催シ

- (一) 勞働者ノ入滿ニ關シ取締ヲナスノ件
 - (二) 裁兵及歸順匪賊ノ雇傭ニ關スル件
 - (三) 勞働供給調節ノ爲全滿華工會社設立ノ件
- ノ三件ニ付意見ヲ交換シタルカニ關シテハ治安維持ノ見地ヨリ多數ノ

山東移民カ入滿スルコトハ面白カラサルノミナラス朝鮮人及日本人ノ滿洲移住ヲ獎勵スル爲山東移民ヲ制限スル必要アリトノ議論ト急速ニ建設事業ヲ遂行スヘキ茲數年ノ間ハ能率高ク賃金低廉ナル山東移民ノ入滿ハ已ムヲ待サルモノナリトノ議論ト相對立シ結局實際的處置ニ關シテハ小委員會(原田、植木、谷、大場、堂本、三宅、長尾、神谷、田所)ニ於テ研究スルコトニ決定(一)ニ關シテハ秋山委員ニ於テ具體案ヲ作成ノ上本委員會ニ附議スルコトニ決定(二)ニ關シテハ本件會社カ實際上是ノ如キ事業ヲ行フコトカ可能ナリヤ否ヤニ付實否兩論アリ滿鐵鐵道建設局、國都建設局、土建會ヲ代表スル委員即チ實際的ニ勞働者ヲ使用スル當業者關係委員ハ孰レモ本件會社ヲ設立スルコトハ好マンカラサルノミナラス假令成立セシムルトモ實際上斯クノ如キ事業ヲ遂行スルコト不可能ナルコトヲ力説シ結局本件會社設立ノ可否ニ關シテハ更ニ次回委員會ニ於テ

審議ヲ續行スルコトニ申合ハセ散會セリ
尙本委員會ニハ谷參事官ノ代理トシテ柳谷書記官ヲ出席セシメタリ
右御參考迄報告ス

本信寫送付ル 在滿各領事(分館ヲ除ク)

佐

亞細亞局長
公機密第二五三號

昭和九年三月六日

在滿洲國
特命全權大使 菱刈

外務大臣

廣田 弘毅 殿

寫二部添付

昭和九年三月拾貳日接受



記

13/3

佐

労働統制委員會ニ關スル件
首題ノ件ニ關シテハ本年一月十一日附公機密第三三號往信ヲ以テ申進
置キタル處本年二月二十八日特務部ニ於テ小委員會ヲ開催意見ヲ交換
シタル結果支那労働者ノ入滿取締ニ關シテハ土建關係、炭礦、荷役關
係及農業關係全般ニ亘リ實行スルニ非ラサレハ效果ヲ擧クルコト不可
能ナルモ不取敢土建關係ニ關シテハ本年ニ於テ大體十一萬ノ支那労働

I-0616

者ノ入滿ヲ許可スル方針ヲ樹テ之等労働者ニ對シテハ或ル種ノ「アイ
デンデファイケーションカード」ノ如キモノヲ支給スルコトトシ其ノ實
行方法ニ付テハ滿洲國政府ト土建協會トニ一任スルコトニ申合セタリ
右何等御參考迄報告申進ス
本信寫送付先 在滿各領事（分館ヲ除ク）

労働
法



公機密第二五三號

昭和九年三月六日

在滿洲國
特命全權大使 菱刈 隆

外務大臣 廣田 弘毅 殿

労働統制委員會ニ關スル件

冒題ノ件ニ關シテハ本年一月十一日附公機密第三三號往信ヲ以テ申進
置キタル處本年二月二十八日特務部ニ於テ小委員會ヲ開催意見ヲ交換
シタル結果支那労働者ノ入滿取締ニ關シテハ土建關係、炭礦、荷役關
係及農業關係全般ニ亘リ實行スルニ非ラサレハ效果ヲ擧クルコト不可
能ナルモ不取敢土建關係ニ關シテハ本年ニ於テ大體十一萬ノ支那労働

I-0616

者ノ入滿ヲ許可スル方針ヲ樹テ之等労働者ニ對シテハ或ル種ノ「アイ
デンテファイケーションカード」ノ如キモノヲ支給スルコトトシ其ノ實
行方法ニ付テハ滿洲國政府ト土建協會トニ一任スルコトニ申合セタリ
右何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先 在滿各領事（分館ヲ除ク）

亞細亞局長
公機第253號

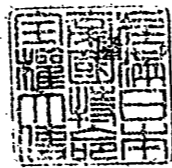
昭和九年三月十四日

第三課長

昭和九年三月十四日
寫二部添付
別紙添付

勤

在滿洲國
特命全權大使 麥 刈



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

労働統制委員會ニ關スル件

本年三月六日附機密公第二五三號往信ヲ以テ申進置キタル労働統制委員
會小委員會ニ引續キ三月十二日特務部ニ委員會ヲ開催別添「労働者ノ入
滿ニ關スル取締要綱」ヲ附議シタル結果異議無ク可決セリ
右何等御參考迄申進ス

本信寫送付先 在滿各領（分館ヲ除ク）

I-0616

労働者ノ入滿ニ關スル取締要綱

- 一、労働者ノ入滿ニ關シテハ治安維持失業防止ノ上ヨリ見テ治安ヲ害スルノ虞アルモノ、就業ノ見込ナキモノハ入滿ヲ爲サシメサルモノトス
- 二、中華民國人ノ労働者入滿者ハ土木建築、炭礦、荷役、農業其他ト大別シテ其數ヲ制限スヘキモ差當リ調査終了ノ土木建築業従事ノモノニ付其數ヲ十一万人ト爲シ手配ヲ爲スモノトス
- 三、右入國ノ取締ハ六連、營口、山海關、安東其他必要ノ箇所ニ於テ行フモノトス
- 四、右入國ノ取締ハ關東軍、滿洲國及關東廳ニ於テ協議ノ上之ヲ決定スルモノトス

労働

公機密第二九三號

昭和九年三月十四日

別紙添付

在滿洲國

特命全權大使

菱

刈

隆



外務大臣 廣田 弘毅 殿

労働統制委員會ニ關スル件

本年三月六日附機密公第二五三號往信ヲ以テ申進置キタル労働統制委員會小委員會ニ引續キ三月十二日特務部ニ委員會ヲ開催別添「労働者ノ入滿ニ關スル取締要綱」ヲ附議シタル結果異議無ク可決セリ

右何等御參考迄申進ス

本信寫送付先 在滿各領（分館ヲ除ク）

Spare

労働者ノ入滿ニ關スル取締要綱

一、労働者ノ入滿ニ關シテハ治安維持失業防止ノ上ヨリ見テ治安ヲ害スルノ虞ナルモノ、就業ノ見込ナキモノハ入滿ヲ爲サシメサルモノトス

二、中華民國人ノ労働者入滿者ハ土木建築、炭礦、荷役、農業其他ト大別シテ其數ヲ制限スヘキモ差當リ調査終了ノ土木建築業従事ノモノニ付其數ヲ十一万人ト爲シ手配ヲ爲スモノトス

三、右入國ノ取締ハ大連、營口、山海關、安東其他必要ノ箇所ニ於テ行フモノトス

四、右入國ノ取締ハ關東軍、滿洲國及關東廳ニ於テ協議ノ上之ヲ決定スルモノトス

亞細亞局

第三課長 添付

昭和九年四月拾六日 労働

佐

普通第三五六號

昭和九年四月十日

在奉天

總領事 蜂谷輝雄



外務大臣 廣田弘毅 殿

通商局

三

昭和九年四月十日 附 菱刈大使宛往信寫送付
普通第二七三號

件名

一、鞍山労働統制委員會成立ノ件

在奉天日本總領事館

別紙添付

普通第二七三號

昭和九年四月十日

在奉天

總領事 蜂谷輝雄

在滿洲國

特命全權大使 菱刈隆 殿

鞍山労働統制委員會成立ノ件

今般鞍山労働方統制ノ目的ヲ以テ昭和製鋼所、小野田「セメント」
大倉組、土庫協建協會支部等協議ノ結果三月三十一日在鞍山労働統制委員
會ヲ組織セルカ右委員會ニ關スル會則別紙ノ通報告ス

本信寫送付先 外務大臣 新京

在奉天日本總領事館

I-0616

鞍山労働統制委員会々則

第一章 總則

- 第一條 本會ハ鞍山労働統制委員會ト稱ス
- 第二條 本會ノ事務所ハ鞍山元町ニ番地ニ置ク
- 第三條 本會ハ在鞍各企業間ニ於ケル滿洲國人労働力ノ調和統制ヲ圖リ各企業相互ノ利益ヲ擁護スルヲ以テ目的トス
- 第四條 本會ハ滿洲國人労働者ノ使用竝ニ之カ供給ヲナス在鞍各企業者ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
委員長一名 副委員長二名 委員若干名（内一名ハ常任トス）
- 第六條 委員長ハ昭和製鋼所人事課長之ニ當リ副委員長及委員ハ鞍山警察署員、鞍山憲兵隊員及在鞍企業者中ヨリ委員長之ヲ選任ス
- 第七條 委員長、副委員長及委員ノ任期ハ一年トス
- 第八條 委員長ハ本會ノ事務ヲ統理シ本會ヲ代表ス

在奉天日本總領事館

- 第九條 副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アル時ハ其ノ職務ヲ代理ス
- 第十條 委員長ハ必要ニ應シ會員ヲ招集シ又ハ役員會ヲ開催スルコトヲ得
- 第十一條 本會ニ顧問ヲ置ク
- 第十二條 顧問ハ本會ノ重要事項ニ對シ委員長ノ諮問ニ應ス
- 第十三條 本會員ハ本會經費ニ充ツル爲一定ノ會費ヲ負擔スルモノトス

第二章 募集

- 第十四條 各企業ハ地方ニ於テ雇傭中又ハ解傭後六ヶ月ニ滿タサル労働者ノ使用ヲ絶對ニ禁ズ但シ相互諒解ノ下ニ爲サレタル移動及作業整理ニ依ル解傭者ノ採用ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十五條 各工事、作業及勞力供給等ノ請負業者ノ所要スル労働者ハ原則トシテ遼陽、海城二縣外ヨリ募集スルコトヲ要ス

在奉天日本總領事館

第十六條 前ノ規定外ノモノニシテ當地及隣接部落ニ於テ労働者ヲ募集シタルモノハ募集、日ヨリ五日以内ニ本會事務所ニ對シ別紙A事項ノ届出ヲ爲スモノトス

第十七條 他地方ニ於テ労働者ヲ募集シ來タリ鞍山ノ事業ニ從事セシムルモノハ到着ノ日ヨリ五日以内ニ本會事務所ニ對シ別紙B事項ノ届出ヲナスモノトス

第十八條 各企業ハ毎月末現在ニヨリ翌月十日迄ニ本會事務所ニ對シ別紙月末報告ヲ爲スモノトス

第三章 労働賃銀

第十九條 労働者ノ賃銀（食費其ノ他ノ手當ヲ含ム）ハ左記ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキモノトス但シ労働時間十時間ヲ超ユル場合ハ一時間毎ニ一割宛増額スルコトヲ得

一、 技 術 工 三三錢
二、 技 術 工 五〇錢以上一圓十錢迄

在奉天日本總領事館

三、 馬車一頭曳 一圓四十錢
四、 二頭曳 二圓

但シ昭和製鋼所以外ノ企業ニ使用スル場合ニ限り二割以内ノ増額ヲ爲スコトヲ得

第二十條 期間十日以上ニ亙リ一日平均二十名以上ヲ使用スル工事又ハ作業現場ヲ開設シタルトキハ各企業者ニ於テ工事又ハ作業ノ着手當日迄ニ本會事務所ニ現場ノ位置、期間、使用労働者數、危険物使用ノ有無責任者ノ氏名等ノ届出ヲ爲スモノトス

第四章 解 雇

第二十一條 各企業ニ於テ労働者ヲ解雇シタルトキハ本會ノ事務所ニ對シ通知ナク別紙C事項ヲ届出ヲ爲スノ外解雇苦力ノ要求ニ應ジ解雇ヲ證明スルニ足ル紙片ヲ交附スルモノトス

解雇證明書ヲ有セザル労働者ハ各驛ヨリ乗車スルコトヲ許サス

附 則

在奉天日本總領事館

I-0616

労働者協会の
ノ功をカフ

第二十二條 他企業ノ労働者ニ對シ規定外ノ賃銀ヲ給付シ或ハ其ノ他ノ利益ヲ提供シ若ハ之ヲ約シテ不正募集ヲ行ヒ爲ニ他企業ニ對シ事業經營上ノ障害ヲ與ヘタルモノハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ責任ヲ迴避スルコトヲ得ス

第二十三條 本會事務所ニ調査委員ヲ置ク
調査委員ハ本會役員ノ命ニヨリ調査ニ從事ス調査員ハ調査員タルコトヲ證スル證明書ヲ所持ス

第二十四條 本會役員ハ必要アリト認メタルトキハ本會々員ノ労働名簿及給與其ノ他ニ關スル書類ヲ閲覧スルコトヲ得

第二十五條 前各條ニ違背シタル者ニ對シテハ本會役員會ノ決議ニ依リ適切ナル制裁ヲ爲スコトアルヘシ

(A、B、C省略)

在奉天日本總領事館

顧問	鞍山警察署長	長山猪重
同	憲兵分遣隊長	岡田毅一郎
委員長	昭和製鋼所人事課長	長井次郎
副委員長	常任 鞍山警察署 高等主任	泉田 薰
同	土建協會支部長	野毛四郎
委員	製鋼所人事係主任	福永源夫
同	・ 勞務係主任	土肥實夫
同	小野田セメント 所主任	西脇寬
同	鞍山出張所	鹽谷忠藏
同	大倉組	荒井啓作
同	志岐組	松尾部長
同	警察署	富田伍長
同	憲兵分遣隊	以上

在奉天日本總領事館

I-0616

式内

原紙「労働」

別紙添付

労働 (4)

普通第二七三號

昭和九年四月十日

在奉天

總領事 森谷 謙雄

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆 殿

鞍山労働統制委員會成立ノ件

今般鞍山労働力統制ノ目的ヲ以テ昭和製鋼所、小野田「セメント」大倉組、土庫協會支部等協議ノ結果三月三十一日在鞍山労働統制委員會ヲ組織セルカ右委員會ニ關スル會則別紙ノ通報告ス

本信寫送付先 外務大臣 新京

在奉天日本總領事館

鞍山労働統制委員會々則

第一章 總則

- 第一條 本會ハ鞍山労働統制委員會ト稱ス
- 第二條 本會ノ事務所ハ鞍山元町二番地ニ置ク
- 第三條 本會ハ在鞍山各企業間ニ於ケル滿洲國人労働力ノ調和統制ヲ圖リ各企業相互ノ利益ヲ擁護スルヲ以テ目的トス
- 第四條 本會ハ滿洲國人労働者ノ使用政ニ之カ供給ヲナス在鞍山各企業者ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
委員長一名 副委員長二名 委員若干名（内一名ハ常任トス）
- 第六條 委員長ハ昭和製鋼所人事課長之ニ當リ副委員長及委員ハ鞍山警察署員、鞍山憲兵隊員及在鞍山企業者中ヨリ委員長之ヲ選任ス
- 第七條 委員長、副委員長及委員ノ任期ハ一年トス
- 第八條 委員長ハ本會ノ事務ヲ統理シ本會ヲ代表ス

在奉天日本總領事館

I-0616

第九條 副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アル時ハ其ノ職務ヲ代理ス

第十條 委員長ハ必要ニ應ジ會員ヲ招集シ又ハ役員會ヲ開催スルコトヲ得

第十一條 本會ニ顧問ヲ置ク

第十二條 顧問ハ本會ノ重要事項ニ對シ委員長ノ諮問ニ應ス

第十三條 本會員ハ本會經費ニ充ツル爲一定ノ會費ヲ負擔スルモノトス

第二章 募集

第十四條 各企業ハ地方ニ於テ雇傭中又ハ解傭後六ヶ月ニ滿タサル労働者ノ使用ヲ絶對ニ禁ス但シ相互諒解ノ下ニ爲サレタル移動及作業整理ニ依ル解傭者ノ採用ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 各工事、作業及勞力供給等ノ請負業者ノ所要スル労働者ハ原則トシテ遼陽、海城二縣外ヨリ募集スルコトヲ要ス

在奉天日本總領事館

第十六條 前ノ規定外ノモノニシテ當地及隣接部落ニ於テ労働者ヲ募集シタルモノハ募集、日ヨリ五日以内ニ本會事務所ニ對シ別紙A事項ノ届出ヲ爲スモノトス

第十七條 他地方ニ於テ労働者ヲ募集シ來タリ鞍山ノ事業ニ從事セシムルモノハ到着ノ日ヨリ五日以内ニ本會事務所ニ對シ別紙B事項ノ届出ヲナスモノトス

第十八條 各企業ハ毎月末現在ニヨリ翌月十日迄ニ本會事務所ニ對シ別紙月末報告ヲ爲スモノトス

第三章 労働賃銀

第十九條 労働者ノ賃銀（食費其ノ他ノ手当ヲ含ム）ハ左記ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキモノトス但シ労働時間十時間ヲ超ユル場合ハ一時間毎ニ一圓宛増額スルコトヲ得

一、並 工 國幣 三三錢

二、技 術 工 五〇錢以上一圓十錢迄

在奉天日本總領事館

I-0616

馬車一頭曳 一圓四十錢
二頭曳 二圓

但シ昭和製鋼所以外ノ金業ニ使用スル場合ニ限り二割以内ノ増額ヲ爲スコトヲ得

第二十條 期間十日以上ニ亘リ一日平均二十名以上ヲ使用スル工事又ハ作業現場ヲ開設シタルトキハ各企業者ニ於テ工事又ハ作業ノ着手當日迄ニ本會事務所ニ現場ノ位置、期間、使用労働者數、危險物使用ノ有無責任者ノ氏名等ノ届出ヲ爲スモノトス

第四章 解雇

第二十一條 各企業ニ於テ労働者ヲ解雇シタルトキハ本會ノ事務所ニ對シ通知ナク別紙C事項ノ届出ヲ爲スノ外解雇苦力ノ要求ニ應ジ解雇ヲ證明スルニ足ル紙片ヲ交附スルモノトス
解雇證明書ヲ有セサル労働者ハ各縣ヨリ乗車スルコトヲ許サス

附則

在奉天日本總領事館

第二十二條 他企業ノ労働者ニ對シ規定外ノ賃銀ヲ給付シ或ハ其ノ他ノ利益ヲ提供シ若ハ之ヲ約シテ不正募集ヲ行ヒ爲ニ他企業ニ對シ事業經營上ノ障害ヲ與ヘタルモノハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ責任ヲ逃避スルコトヲ得ス

第二十三條 本會事務所ニ調査委員ヲ置ク
調査委員ハ本會役員ノ命ニヨリ調査ニ從事ス調査員ハ調査員タルコトヲ證スル證明書ヲ所持ス

第二十四條 本會役員ハ必要アリト認メタルトキハ本會々員ノ労働名簿及給與其ノ他ニ關スル書類ヲ閲覧スルコトヲ得

第二十五條 前各條ニ違背シタル者ニ對シテハ本會役員會ノ決議ニ依リ適切ナル制裁ヲ爲スコトアルヘシ

(A、B、C省略)

在奉天日本總領事館

普通第二七三號

昭和九年四月十日

在奉天總領事 蜂谷輝雄

在滿洲國

特命全權大使 菱刈隆殿

鞍山勞働統制委員會成立ノ件

今般鞍山勞働力統制ノ目的ヲ以テ昭和製鋼所、小野田「セメント」大倉組、土建協會支部等協議ノ結果三月三十一日在鞍勞働統制委員會ヲ組織セルカ右委員會ニ關スル會則別紙ノ通報告ス

本信寫送付先 外務大臣 新京

外務省

9.3

鞍山勞働統制委員會々則

第一章 總則

- 第一條 本會ハ鞍山勞働統制委員會ト稱ス
- 第二條 本會ノ事務所ハ鞍山元町二番地ニ置ク
- 第三條 本會ハ在鞍各企業間ニ於ケル滿洲國人勞働力ノ調和統制ヲ圖リ各企業相互ノ利益ヲ擁護スルヲ以テ目的トス
- 第四條 本會ハ滿洲國人勞働者ノ使用竝ニ之カ供給ヲナス在鞍各企業者ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
委員長一名 副委員長二名 委員若干名（内一名ハ常任トス）
- 第六條 委員長ハ昭和製綱所人事課長之ニ當リ副委員長及委員ハ鞍山警察署員、鞍山憲兵隊員及在鞍企業者中ヨリ委員長之ヲ選任ス
- 第七條 委員長、副委員長及委員ノ任期ハ一年トス
- 第八條 委員長ハ本會ノ事務ヲ統理シ本會ヲ代表ス

外務省

9.3

I-0616

第九條 副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アル時ハ其ノ職務ヲ代理ス

第十條 委員長ハ必要ニ應シ會員ヲ招集シ又ハ役員會ヲ開催スルコトヲ得

第十一條 本會ニ顧問ヲ置ク

第十二條 顧問ハ本會ノ重要事項ニ對シ委員長ノ諮問ニ應ス

第十三條 本會員ハ本會經費ニ充ツル爲一定ノ會費ヲ負擔スルモノトス

第二章 募集

第十四條 各企業ハ地方ニ於テ雇傭中又ハ解傭後六ヶ月ニ滿タサル労働者ノ使用ヲ絶對ニ禁ス但シ相互諒解ノ下ニ爲サレタル移動及作業整理ニ依ル解傭者ノ採用ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 各工事、作業及勞力供給等ノ請負業者ノ所要スル労働者ハ原則トシテ遼陽、海城二縣外ヨリ募集スルコトヲ要ス

外務省

第十六條 前ノ規定外ノモノニシテ當地及隣接部落ニ於テ労働者ヲ募集シタルモノハ募集ノ日ヨリ五日以内ニ本會事務所ニ對シ別紙

A事項ノ届出ヲ爲スモノトス

第十七條 他地方ニ於テ労働者ヲ募集シ來タリ鞍山ノ事業ニ從事セシムルモノハ到着ノ日ヨリ五日以内ニ本會事務所ニ對シ別紙B事項ノ届出ヲナスモノトス

第十八條 各企業ハ毎月末現在ニヨリ翌月十日迄ニ本會事務所ニ對シ別紙月末報告ヲ爲スモノトス

第三章 労働賃銀

第十九條 労働者ノ賃銀（食費其ノ他ノ手當ヲ含ム）ハ左記ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキモノトス但シ労働時間十時間ヲ超ユル場合ハ一時間毎ニ一割宛増額スルコトヲ得

一 並 工 國幣 三三錢

二 技術工 五〇錢以上一圓十錢迄

外務省

馬車一頭曳 國幣 一圓四十錢

二頭曳 二圓

但シ昭和製網所以外ノ企業ニ使用スル場合ニ限り二割以内ノ増額ヲ爲スコトヲ得

第二十條 期間十日以上ニ亘リ一日平均二十名以上ヲ使用スル工事又ハ作業現場ヲ開設シタルトキハ各企業者ニ於テ工事又ハ作業ノ着手當日迄ニ本會事務所ニ現場ノ位置、期間、使用労働者數、危険物使用ノ有無責任者ノ氏名等ノ届出ヲ爲スモノトス

第四章 解雇

第二十一條 各企業ニ於テ労働者ヲ解雇シタルトキハ本會ノ事務所ニ對シ遅怠ナク別紙C事項ノ届出ヲ爲スノ外解雇苦力ノ要求ニ應ジ解雇ヲ證明スルニ足ル紙片ヲ交附スルモノトス
解雇證明書ヲ有セサル労働者ハ各驛ヨリ乗車スルコトヲ許サス

附則

外務省

0.3

は(イ)

第二十二條 他企業ノ労働者ニ對シ規定外ノ賃銀ヲ給付シ或ハ其ノ他ノ利益ヲ提供シ若ハ之ヲ約シテ不正募集ヲ行ヒ爲ニ他企業ニ對シ事業經營上ノ障害ヲ與ヘタルモノハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ責任ヲ迴避スルコトヲ得ス

第二十三條 本會事務所ニ調査委員ヲ置ク
調査委員ハ本會役員ノ命ニヨリ調査ニ従事ス調査員ハ調査員タル

コトヲ證スル證明書ヲ所持ス

第二十四條 本會役員ハ必要アリト認メタルトキハ本會會員ノ労働名簿及給與其ノ他ニ關スル書類ヲ閱覽スルコトヲ得

第二十五條 前各條ニ違背シタル者ニ對シテハ本會役員會ノ決議ニ依リ適切ナル制裁ヲ爲スコトアルヘシ

(A、B、C省留)

外務省

0.3

I-0616

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	願	願
憲兵分遣隊	警察署	志岐組	大倉組	鞍山出張所主任	小野田セメント主任	労働係主任	製網所人事係主任	土建協會支部長	副委員長 常任高等主任	昭和製網所人事課長	憲兵分遣隊長	憲兵分遣隊長	鞍山警察署長
富田伍長	松尾部長	荒井作	鹽谷忠藏	西脇寛	土肥實夫	福永源夫	野毛四郎	泉田薰	長井次郎	岡田毅一郎	岡山猪重	岡山猪重	岡山猪重
以上													

外務省

0.8

は(1)

I-0616